

令和4年度（2022年度） 鴻池小学校 第3回学校運営協議会 議事録

1. 日 時 令和5年 2月22日（水）18：00～19：00
2. 場 所 鴻池小学校 視聴覚室
3. 参加者 協議会委員 : 阪田会長・松原委員・堤委員・寺井委員・
4. 銀杏委員
教職員 : 宮谷校長先生・安井教頭先生
欠席者 : 欠席者 3名
教育委員会より：太田教育委員・戸田指導主事

5. 学校長あいさつ

3学期に入り、インフルエンザによる学級閉鎖が2クラス出たが、昨年度の今頃、新型コロナウイルス感染症の閉鎖が多数出たことと比べると、かなりましな状況である。参観等の制限もなく開催でき、図工展も委員の皆様にも多数お越しいただくことができてよかった。

先日、東京都の附属小学校の研究発表会へ参加した。そこでは、「未来の学校みんなで作ろう」「好きに挑む」をテーマとして、地域や企業と連携して10年後の学校づくりについて考える取組を行っていた。教師の指導力や個別対応の学びの推進など、しばらくは大変な時代が続きそうだが、地域・保護者との連携はより欠かせないものとなる。委員の皆様には、忌憚のないご意見をたくさんいただきたい。

5. 課題

(1) 学校の様子について

学校通信を中心として校長より学校の様子について説明。学校通信は2月22日現在で43号まで発行しており、Google クラウドルーム及びホームページ、掲示などで保護者・地域へ発信を行っている。

(2) 学校関係者評価について

【授業力改善と基礎基本の定着】

- ・計算力の向上は本校の大きな課題のひとつ。学年ごとに、定期的に計算確認テスト（10分程度で取り組めるもの）を実施することとした。主体的・対話的で深い学びに向け、課題解決型などの授業改善も必要となる。

(委員より)

- ・計算力向上について、確認テストをしていただけるのは保護者としてとてもありがたく、ぜひとも取り組んでほしい。子どもにとって、わからないことが積み重なってしまうと、わからないことを一日中聞くのはとても苦痛となる。学校に行く＝「わかる」であってほしい。確認テストを受ける際は、「わからないところを発見するためのテストだよ」と伝えてもらおうと、子どもの緊張もやわらぐのではないかな。また、計算力テストで課題が明確となった子どもへのフォローもお願いしたい。

- ・学力については、コロナの影響がやはり大きいように思う。2ヶ月休校し、そこから学習を再開した子どもたちが現在中学生となっているが、小学校で学ぶ内容が定着しないまま卒業せざるを得なくなった。特に数学についての理解が低い。数学は、学習が進むと証明など、国語力も必要とされてくる。

→昨年度、6年生で算数の習熟度別授業を行っていたが、3年生程度の内容が定着していない、それ以前の九九も難しい児童がいることわかり、学年ごとに習う内容を定着させていくことは徹底したい。単元が終わるごとにテストを行うが、あれは習いたてなので点数が高くなりがち。時間をおくとまた忘れてしまうので、時間が経ってからの定着度を確かめることが必要である。5年生については、今月中に今年度の学力テストに取り組んでもらい、問題文の読み方やポイントなどを押さえ、テストの形式に慣れさせておきたいと考えている。

- ・デジタルドリルについての利点はどのようなところがあるのか。

→自主学习として取り組むのは良いが、まだまだ課題も多いところがある。一問一答形式になっていることや、同じ問題ばかり解いてポイントを稼ぐなどの問題も見えてきた。業者の販売しているデジタルドリルを購入している学年もあるが、スクールタクトなどと連携してフル活用しているなど、良い点も見られるので、学校での学習に今後も活かしていきたいと考えている。

【学級力アンケートについて】

- ・今年度から全学級で、年間6回の学級力アンケートを実施した。レーダーチャートで見える化したものを子どもたちが振り返る取組を、よりよい学級づくりに活かすために次年度も継続して行う。

【読書活動の充実】

- ・学校では様々な読書についての取組を行っているが、家庭での読書週間が定着していない現状がある。PTAと連携し、「平日は、学校で。週末は、家庭で。」を呼びかけていく。また、図書室に置く書籍について、児童のニーズに幅広く応え、読書意欲を高める取組を行っていく。

(委員より)

- ・読書活動については、かつて本校でも読書ボランティアを保護者から募るなど活動していたが、コロナの影響でストップしてしまっていて以来、なかなか再開できていない。今後は呼びかけを再開するなどPTAでも検討する。

【道徳教育の充実】

- ・「考え、議論する」道徳科授業の実現に向け、道徳教育の授業に長けた教員を中心として、学校全体で次年度も取り組んでいく。
- ・委員会活動や異学年交流など、自己有用感を高められる活動を今後も活性化していく。目的をはっきりさせ、「やってみよう」と思える活動を行っていききたい。

(委員より)

- ・委員会活動は高学年にとって楽しい活動であってほしい。学校に来る上での「楽しいもの」のひとつになればありがたい。

【健康教育の充実】

- ・運動することが知力の向上につながると科学的にも証明されている。サーキットトレーニング、業間運動の充実を継続していく。ソフトボール投げやシャトルランなど、体力をしっかりとつけてやりたい。

(委員より)

- ・業間なわとびなど、運動は「できた」がはっきりとわかりやすいものだと思うので、ぜひ続けていってほしい。

【情報開示】

- ・ホームページは毎日更新し、Google クラウドでも保護者へ積極的に配信を行っている。次年度も継続する。教員も、スクールタクトを活用した積極的な発信を行っていくよう呼びかけていく。

【危機的管理体制の充実】

- ・避難訓練など、子どもたちは目的をよく理解して、静かに取り組んでいる様子が見られた。次年度も子どもたちの安全を守るための体制づくりを徹底する。

【教職員の適切な働き方改革について】

- ・教職員には、自分の働き方についてのタイムマネジメントを呼びかけている。今年度、1ヶ月の平均超過勤務時間は、26時間程度となっており、効率的な勤務態勢が定着しつつある。次年度は、学校の留守番電話の設定を18:00～翌朝7:30とするなど、保護者にも理解と協力を呼びかけていきたい。

(3) 来年度の学校運営方針について

- ・伊丹市教育委員会からも、先日令和5年度の教育方針が示された。キーワードは「主体性」「自尊感情」「個に応じた対応」などである。本校としては、市の教育方針を踏まえながら、「多様性」を身につけさせていきたいと考えている。学校・地域・保護者みんなが連携し、居心地のよい「ウェルビーイングな学校」をめざす。

6. 閉会あいさつ（阪田会長より）

今年度の会も最後となったが、委員の皆様には多くの意見をいただき感謝している。こうくんのしおりや漢字検定の実施など、PTAの皆様にもたくさんご協力いただいた。地域のボランティアも、今後どんどん進めていけるよう、この会が中心となって発信していけたらと考えている。